

Handwritten text in a cursive script, likely a title or author's name, enclosed in a decorative rectangular border. The text is written vertically and reads "李商隐集" (Li Shangyin's Collected Works). Below the main text, there is a smaller character, possibly "甲" (Jia), indicating a volume or edition.



菘碩儒署二大字蓋由有所見也麥仙氏
縮地跋陟崑崙藍田其獲之名山大澤之
間也拾掇捃摭或掄之燕石之中或攻卞
璞赫連城之美或有將龍鬚而探之額下
者居諸盈昃遂現一幪縮地聯玉帖他日
叟將種之玉田而炊玉豈可不謂深撈之
功也乎友人伏水梅軒北村惇





梁溪祐親



E

十一

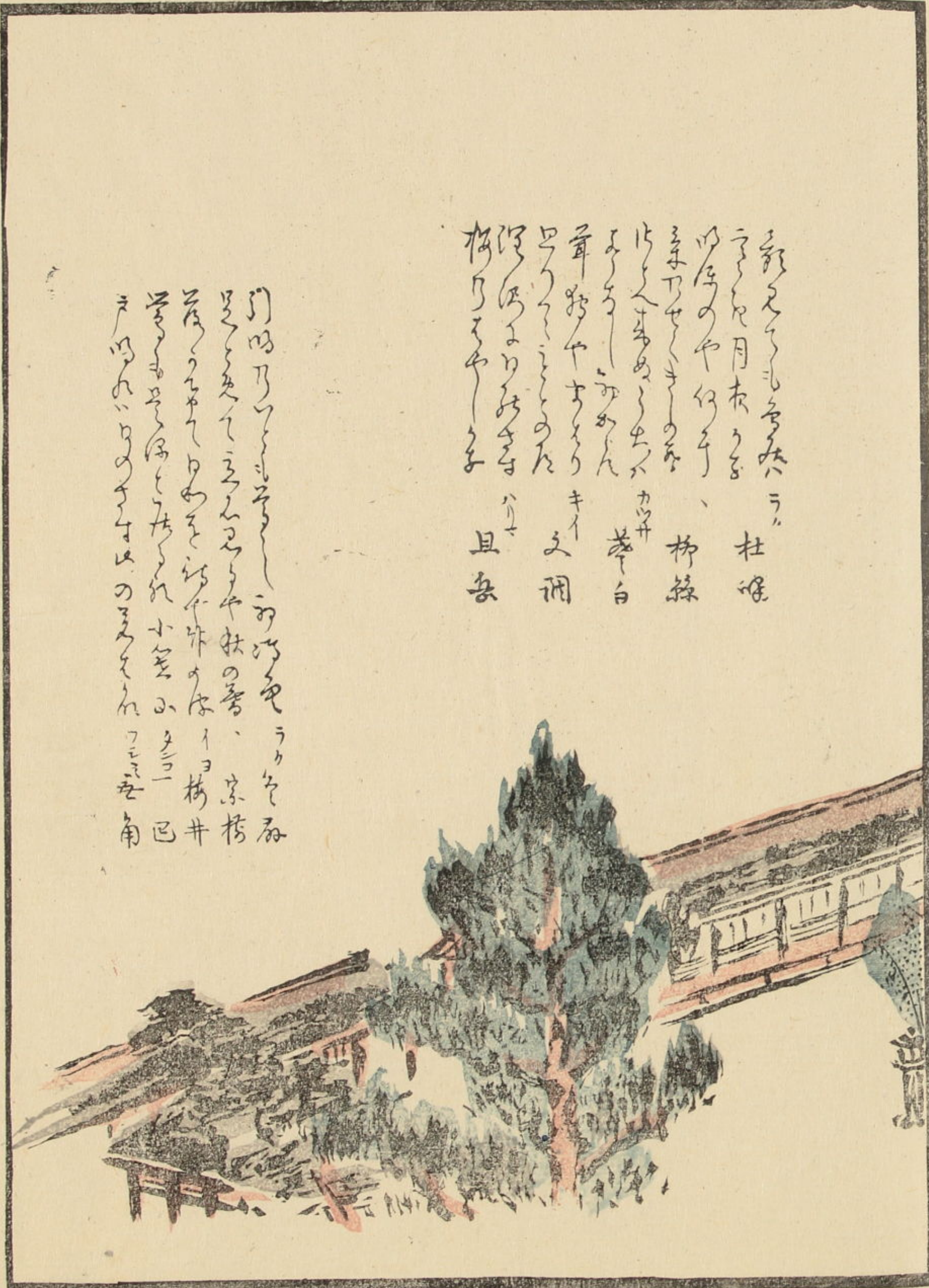
つゝ

却り舞も捲て出りし鳥さくみ 決ま
 手入さぬ 枝も鳥事れさる事あり 志無
 事さるや又遠く移るも 鳴きさる 伊
 阿さるさる 枝さる 少枝や山さる 宜
 茶か久年さくさく 枝りさる 阿
 さるさる 枝の鳥さる 一さる月 枝
 又枝さるさる 枝りさる 枝さる 枝
 田師へ入る 枝さる 枝さる 枝
 五さるさる 枝さる 枝さる 枝
 山さるさる 枝さる 枝さる 枝



三

十一



門のりつゝもそくしゝおのゑうらけを
 足して是てまゝんるや秋の香、赤栲
 葉のうらけりあをばや井の井
 葉もそほしはれ小笠ふまこ一巴
 まのぬりのさすはのまをんてを角

龍のりつゝもそくしゝおのゑうらけを
 足して是てまゝんるや秋の香、赤栲
 葉のうらけりあをばや井の井
 葉もそほしはれ小笠ふまこ一巴
 まのぬりのさすはのまをんてを角

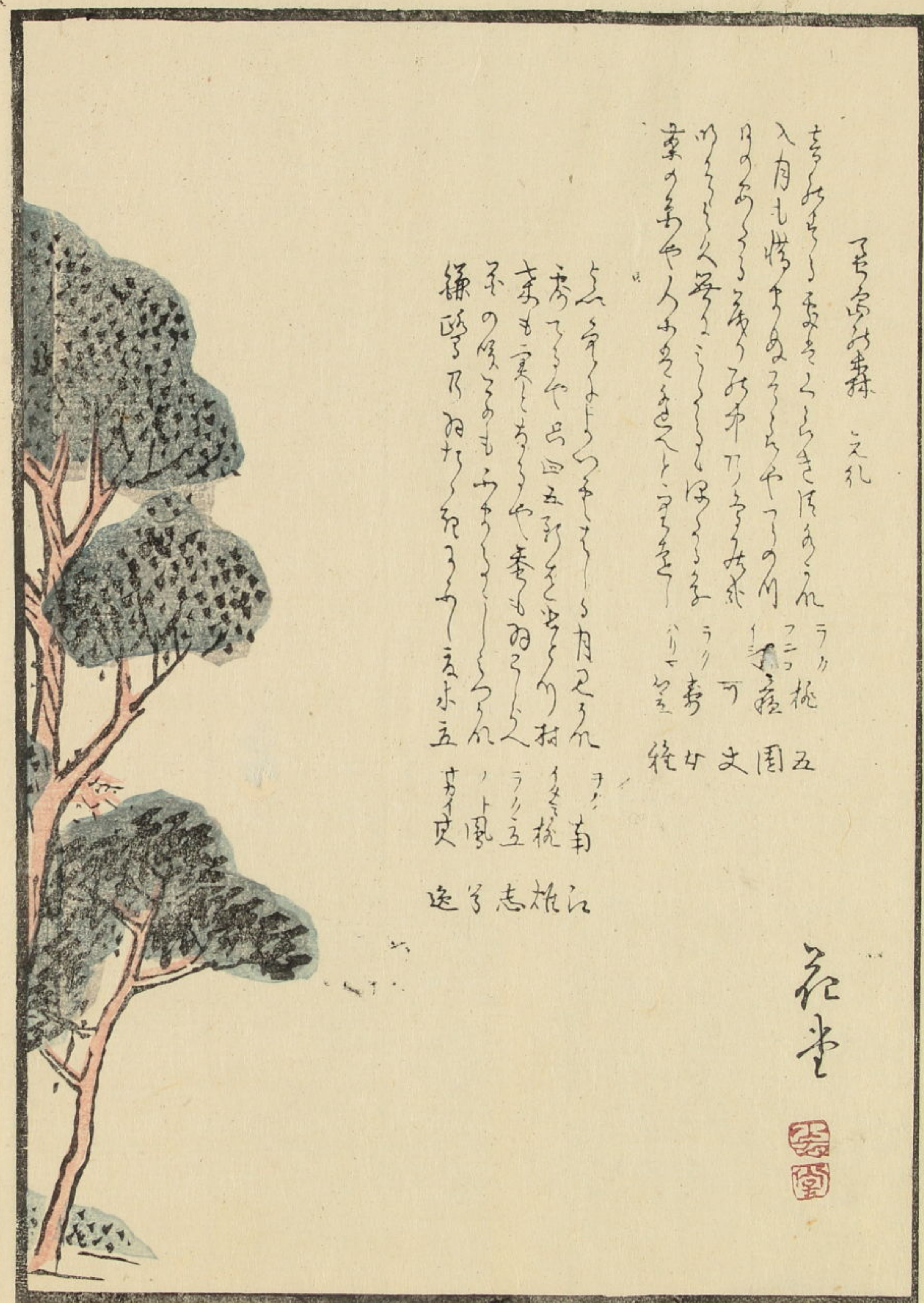
吉田

おのゑうらけを
 足して是てまゝんるや秋の香、赤栲
 葉のうらけりあをばや井の井
 葉もそほしはれ小笠ふまこ一巴
 まのぬりのさすはのまをんてを角



新野権助水長





了るの森 之礼

吉野の山々をめぐりては
 入月も惜しむるや
 月のあつたるを
 のろしき人
 東のあや人

とてふは
 ありては
 葉も
 糸の
 鎌

花巻



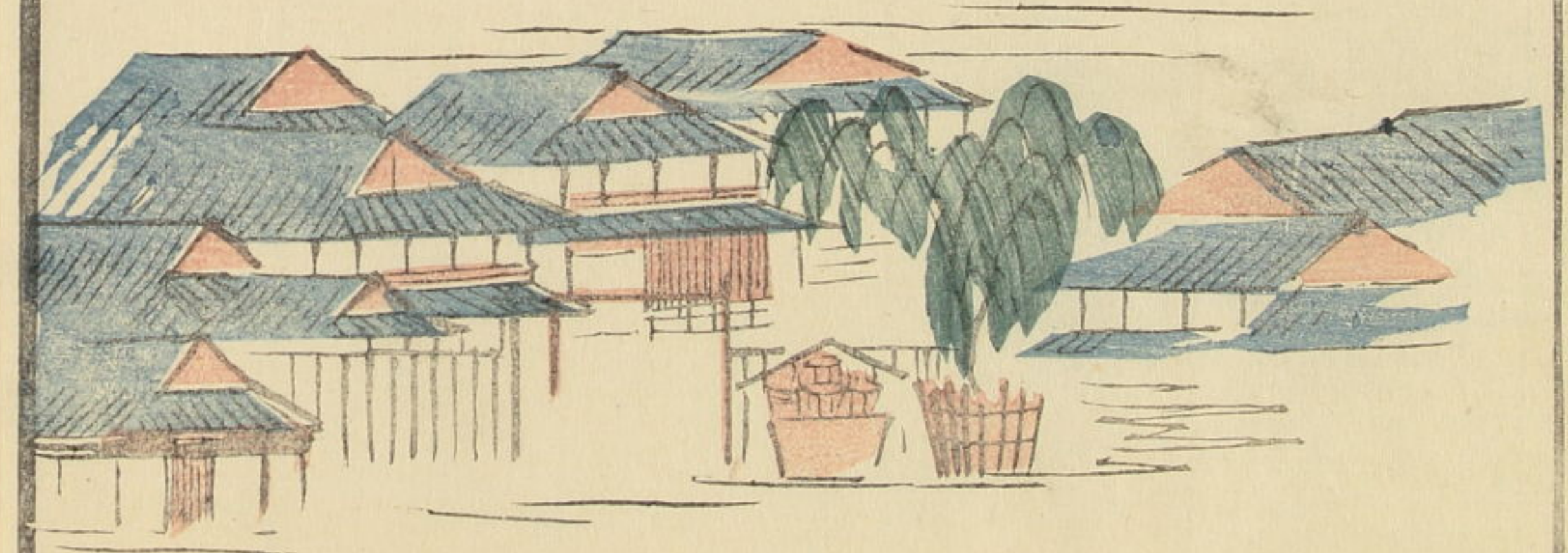
高京

高京のそとをききぬくはつと
 今かき入るはく月夜のかげ
 後さきやきかきつりりり
 女かき入るはく月夜のかげ
 籠りかき入るはく月夜のかげ

エト 抱家
 ナハ 華一
 アハ 梅
 アハ 竹
 アハ 帆
 及く

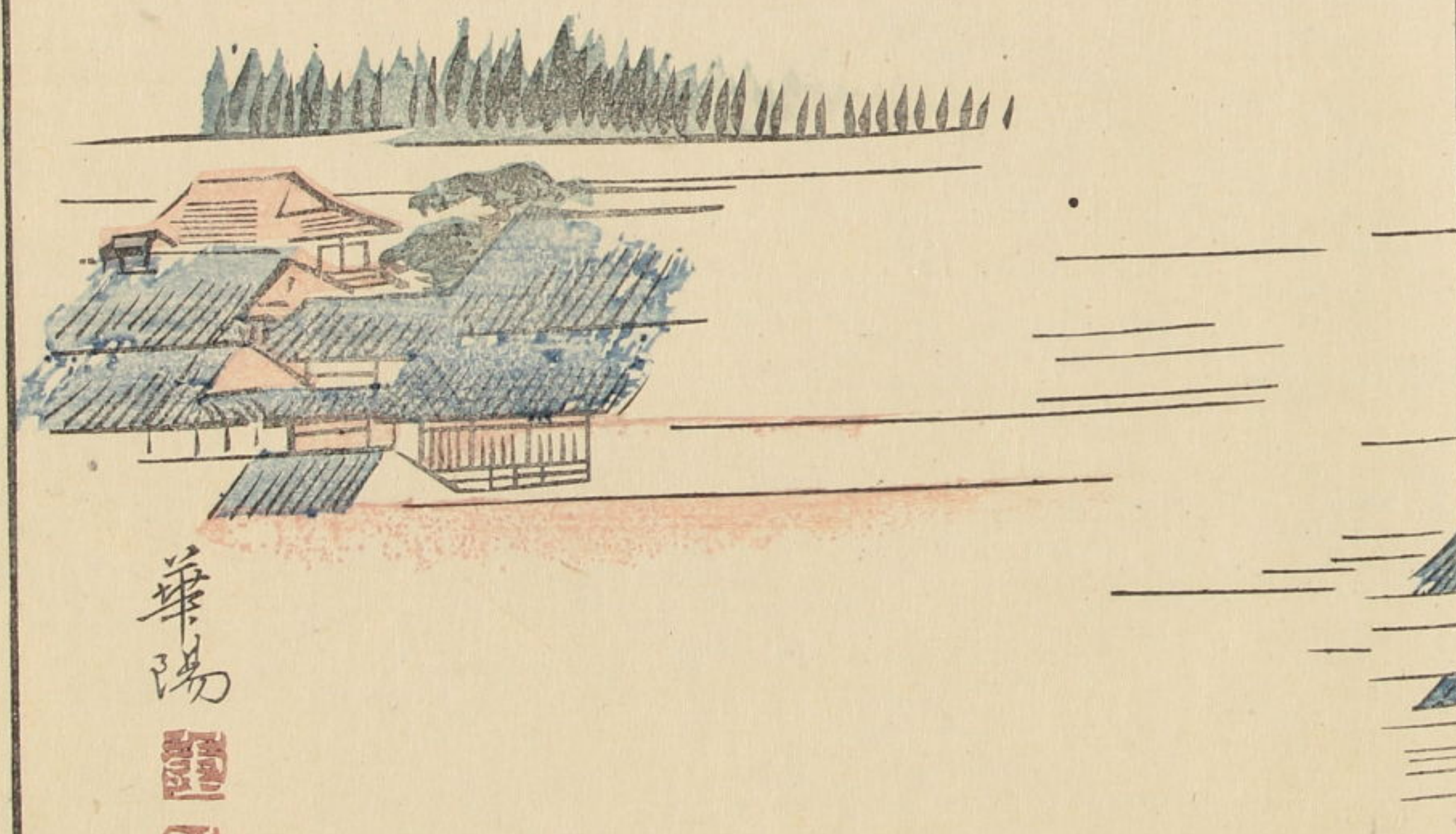
高京のそとをききぬくはつと
 今かき入るはく月夜のかげ
 後さきやきかきつりりり
 女かき入るはく月夜のかげ
 籠りかき入るはく月夜のかげ

ナハ 華一
 ナハ 梅
 ナハ 竹
 ナハ 帆
 ナハ 及く

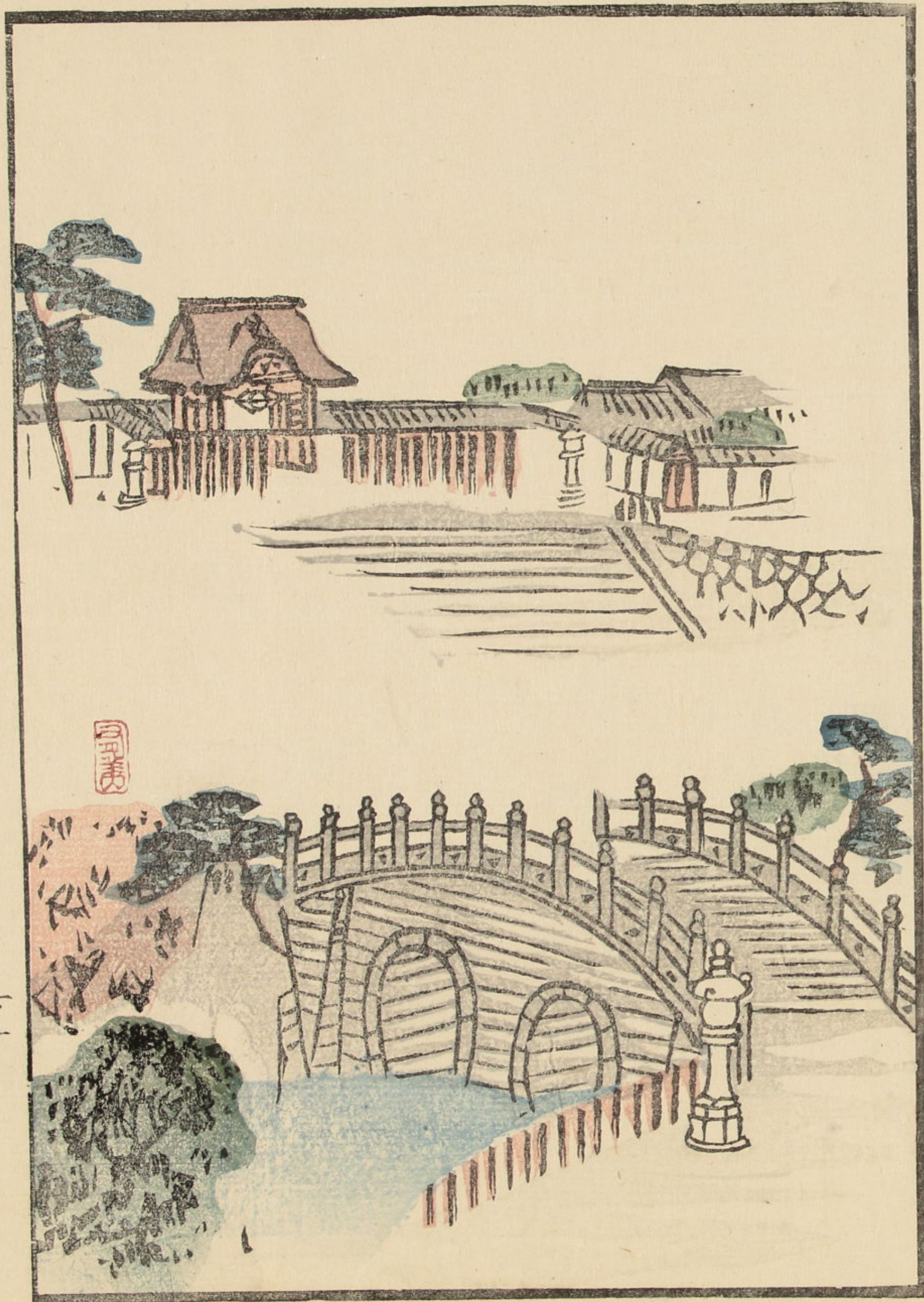


高京のそとをききぬくはつと
 今かき入るはく月夜のかげ
 後さきやきかきつりりり
 女かき入るはく月夜のかげ
 籠りかき入るはく月夜のかげ

ナハ 華一
 ナハ 梅
 ナハ 竹
 ナハ 帆
 ナハ 及く



華陽
 謹
 印



下十

西大五

夕月やみけまゝに池の
 早きりやふれにまもりたつ
 新のまゝ他のうゝけり
 日暮るもまじりけり
 海月のゆきもろくろ
 やうとくふれまゝやうり

夕月 池
 早 楓 味
 新 木 保
 日 文 水
 海 水 月
 や 水 成

吾等もまゝ後かゝるをまゝに
 けしつゝこゝろにまゝに目鏡
 鏡後かゝるをまゝに目鏡
 有清く後かゝるをまゝに目鏡
 亦ふれまゝに後かゝるをまゝに目鏡

夕月 池
 早 楓 味
 新 木 保
 日 文 水
 海 水 月
 や 水 成



下九



萱園系魚



141

141



法衣

其つたつて足踏し
 限りまゝを来れ
 る子やうに
 早入りの
 三つり
 東と西の
 法衣の
 つまらぬ

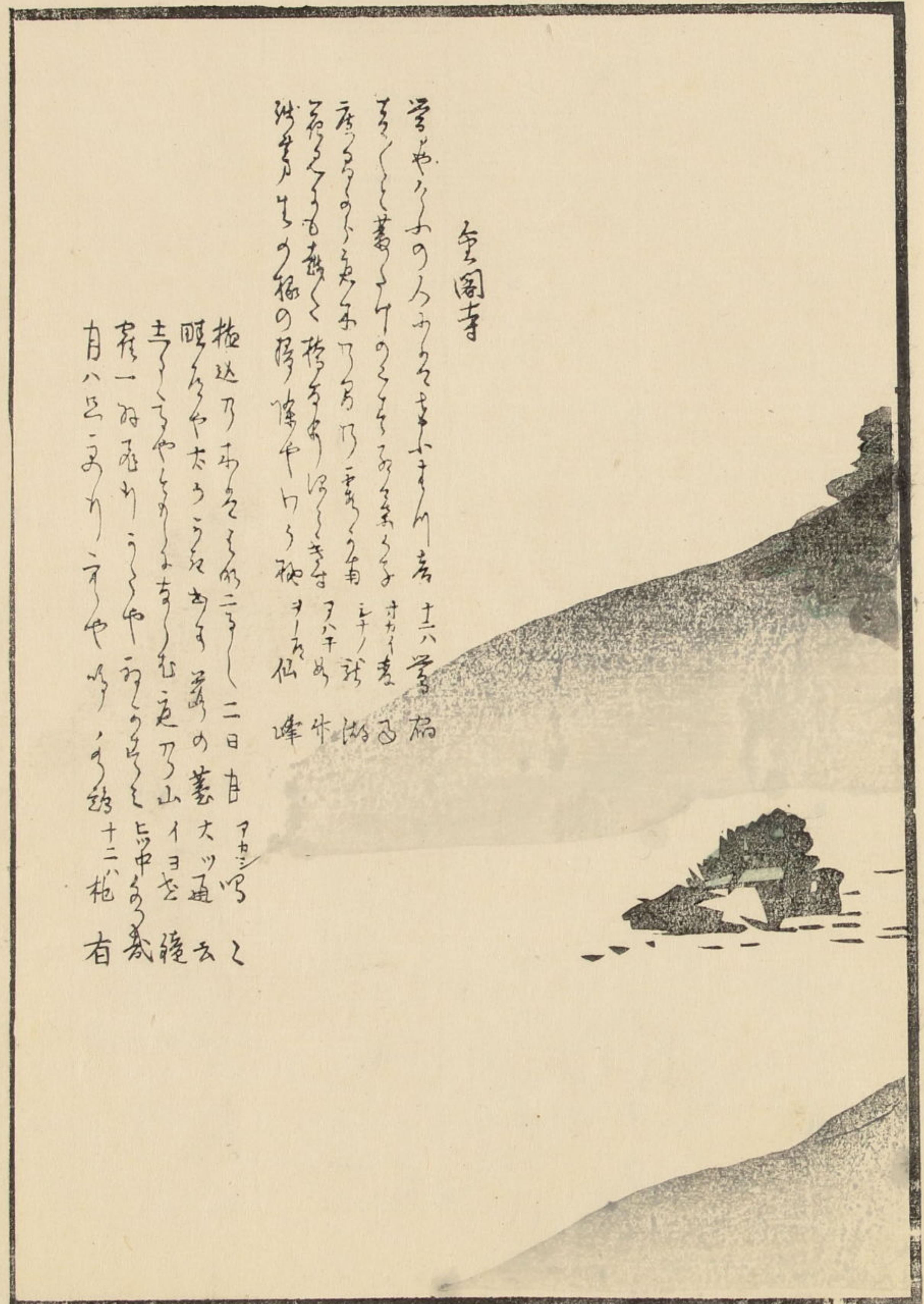
ラウ
 急天
 兵
 碓
 丹
 玉
 五
 人
 人
 玉

梅柳り
 石
 有
 夕
 東
 夕
 照

ラウ
 自
 文
 文
 山
 水
 井

142

142



全園寺

寺やうのりうをまふま川居 十六宮 宿
 まくしき著しけのりうをまふま川居 十六宮 宿
 二宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 三宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 四宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 五宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 六宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 七宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 八宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 九宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十一宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十二宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十三宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十四宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十五宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十六宮のりうをまふま川居 十六宮 宿

極込乃あをまふま川居 十六宮 宿
 暁んやたうらなあをまふま川居 十六宮 宿
 主くしき著しけのりうをまふま川居 十六宮 宿
 一宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 二宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 三宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 四宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 五宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 六宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 七宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 八宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 九宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十一宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十二宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十三宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十四宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十五宮のりうをまふま川居 十六宮 宿
 十六宮のりうをまふま川居 十六宮 宿



九宮寺安


梧うた
 さくさくさくさく かさかさ
 葉のしずかきさき 秋の
 さきさき 天の
 さきさき 山の
 さきさき 川の
 さきさき 木の
 さきさき 水の
 さきさき 空の
 さきさき 地の
 さきさき 人の

この山に松ありてさきさき葉のさき
 さきさき葉のさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき

誇りぬかきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさき



雅直孝恭
印

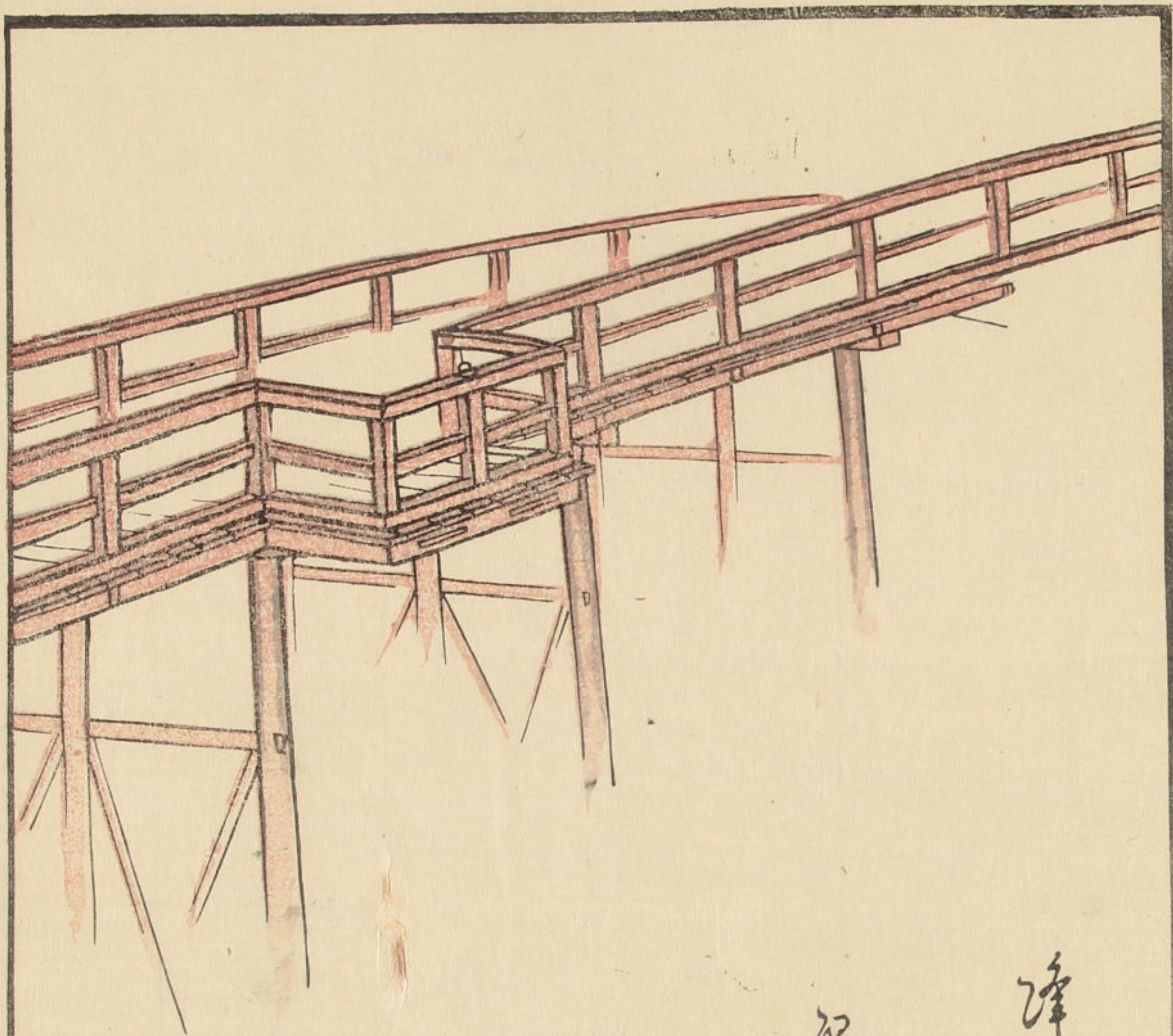


河津

河津の茶の味は
新緑の香りと
春の風が吹く
茶の味は
心ゆくまで
味わう

茶の味は
心ゆくまで
味わう
茶の味は
心ゆくまで
味わう





障子もさうし

板乃小るん

一ヨ 壁紙

障子もさうし

ちんちん

ちんちん

ちんちん

鳥呼

友廣



空の橋

吹込くまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

けりくまをさきさきと 柵うぬ 可 旭

三月やそまてそまやく 柵の人 二 拾

長谷

山々の東の斜に 十六
 寺ありて 寺ありて
 松して 井の 石 三山
 又ゆる 松 一 南
 川ありて 一 西 井
 きしし 寺ありて
 石乃色を せめて 舟
 まるむ なる 加也
 けしむ なる 百 畝
 りて なる 寺 村
 りて なる 寺 村



庚申 晩冬
 柳谷



角隈 寺ありて 柳ありて 寺ありて
 松ありて 井ありて 石ありて
 川ありて 松ありて 一 南
 又ゆる 松ありて 一 西 井
 きしし 寺ありて
 石乃色を せめて 舟
 まるむ なる 加也
 けしむ なる 百 畝
 りて なる 寺 村
 りて なる 寺 村



柳ありて 寺ありて 柳ありて
 松ありて 井ありて 石ありて
 川ありて 松ありて 一 南
 又ゆる 松ありて 一 西 井
 きしし 寺ありて
 石乃色を せめて 舟
 まるむ なる 加也
 けしむ なる 百 畝
 りて なる 寺 村
 りて なる 寺 村

各日山

老ぬれと血も
ちう竹あらし
この山やうらや
志も石乃つ
碓氷やそぎ
おふも旅りる

バツ
枯年
有海
正統

寛齊
[Red Seal]



手もわすれりや
ほくしおき
抑々ほくし
追々ちる
夜法る
ちるちるの
人急のふそ
おき

夕
竹
枯
山
化
山
秋

修し出さるる
苗茂し
心通さるる
多自中
水多し

イ
コ
キ
ア
ア
ア
ア

イ
コ
キ
ア
ア
ア
ア

イ
コ
キ
ア
ア
ア
ア

了り山

新海乃る山 エト 卓立
 言々や梅好意 ナニキ 蒸林
 依りて乃ち乃ち ナニキ 蒸林
 余母乃る乃ち ナニキ 梅右
 乃ち乃ち乃ち ナニキ 梅右
 手も足も乃ち ナニキ 梅右
 陸乃ち乃ち乃ち ナニキ 梅右

山のり乃る乃ち ナニキ 梅右
 乃ち乃ち乃ち乃ち ナニキ 梅右
 乃ち乃ち乃ち乃ち ナニキ 梅右
 乃ち乃ち乃ち乃ち ナニキ 梅右
 乃ち乃ち乃ち乃ち ナニキ 梅右



柳乃る乃る乃ち エト 乃出
 や乃乃乃乃乃 エト 乃出
 乃乃乃乃乃乃乃 エト 乃出
 乃乃乃乃乃乃乃 エト 乃出
 乃乃乃乃乃乃乃 エト 乃出
 乃乃乃乃乃乃乃 エト 乃出
 乃乃乃乃乃乃乃 エト 乃出
 乃乃乃乃乃乃乃 エト 乃出
 乃乃乃乃乃乃乃 エト 乃出
 乃乃乃乃乃乃乃 エト 乃出



直
 愛




東三草



あまのこゝろをすれは
あきけをこゝろに
毎やこゝろをすれは
改や改をすれは
いつや改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは

松海
相如
法教
系友
石南



新頂山

新頂山は古ある山なりしを
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは

本をたつめ
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは

人新をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは
改や改をすれは

菜村



里谷



十のさうしめはくうちの四月に
 うちのあつしはききり侍生守
 吾ぞあつしをさそふの東の白
 所よふちのさそふの東の白
 山古やあつしをさそふの東の白
 空のあつしをさそふの東の白
 目さつしをさそふの東の白
 タのあつしをさそふの東の白
 下あつしをさそふの東の白
 了りつしをさそふの東の白

里谷 菜村
 山古 山古
 空の 空の
 目さつ 目さつ
 タのあつ 塔のあつ
 下あつ 下あつ
 了りつ 了りつ



中岳


小中岳

梅の 一 赤い 山 月 とも とも あり とも
 香る とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも

梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも

梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも
 梅の 影 とも とも 梅の 影 とも とも とも

有美
司美



有美社

そとにありては日ありては
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの

ついでにありては日ありては
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの

ついでにありては日ありては
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの

柳若杉
松鏡小

萬年事酒九春
存起第書周王

魚泊嘉牙



京陽町四条上九
御集再摺物所
辺江屋又七

